

進行再発乳癌患者における健康関連 QOL 尺度が OS に与える影響の探索的評価に向けて

1980年代に本格化したアウトカム研究の新しい流れは、QOLを医療評価のための患者立脚型アウトカムとして明確に位置づけ、罹患・死亡率など従来の客観的な評価指標にはない画期的な特徴をもつ指標として最重要視するようになった。がんの治療分野でも近年、国際共同臨床試験が増え文化差を超えて使用可能な適切なQOLの評価に対する需要が高まっている。例えば癌分野では、これまでの過去数十年で数多くの Health Related Quality of Life(HRQoL)調査が行われてきた。さらに癌患者において baseline HRQoL dimension scores を評価する事が Overall survival(OS)の予後予測を改善するとの報告がある。Quinten らの行った 1 万人を超える癌患者(様々な癌腫)を含む meta-analysiss の結果、HRQoL は長期生存の予後因子であった[1]。そこで、今回、日本人の進行再発乳癌患者を対象に再発 1 次化学療法として経口抗がん剤 S-1 とタキサンを比較した SELECT-BC 試験のデータを二次利用し、EORTC QLQ-C30,EQ-5D score を用い baseline HRQoL が OS の予後予測因子となるかについて評価したいと考えている。

以下、総論として、(1) QOL 尺度の分類、(2)代表的ながん特異的 QOL 評価尺度、(3)SELECT-BC 試験の概要、(4)転移性乳癌の予後因子について順に紹介し、解析を行う前段階として背景情報について整理する。

#### 参考文献

- [1] Quinten, C., et al., *Baseline quality of life as a prognostic indicator of survival: a meta-analysis of individual patient data from EORTC clinical trials*. *Lancet Oncol*, 2009. 10(9): p. 865-71.